

PCR検査体制アンケート調査結果報告

2020.9.13

(一社) 鹿児島県臨床検査技師会

•鹿児島県臨床検査技師会では、現在のコロナ禍において各施設でどのような方法でPCR検査を実施または実施予定か調査し、第2波に向けて各医療機関がどのような体制で検査を実施するか情報を共有化し、新規に導入する施設の会員支援として活用するためアンケート調査を実施した。

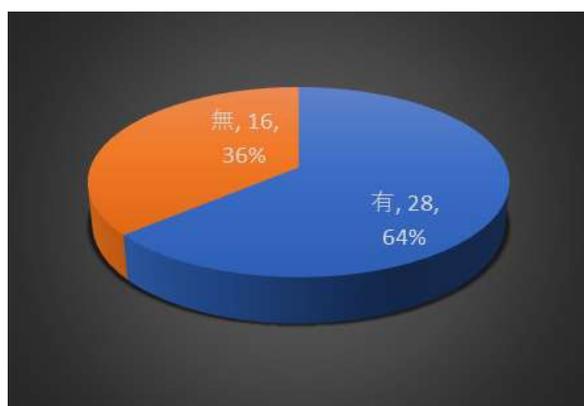
•アンケート調査期間：2020年8月29日～9月10日 13日間

•アンケート対象施設数：103施設

(鹿児島県内メールアドレス登録の施設責任者or関係者へメールで実施)

•アンケート回答施設数：44施設 (43%)

検査実施の有無



新型コロナウイルスの検査を行っている施設は28施設/44施設 64%でした。

実施検査の種類



複数の方法の検査を実施している施設がありますが
一番多い検査が
抗原定性検査20施設 (45%)、
続いてPCR検査16施設 (36%)、
抗体検査は6施設 (14%)、
抗原定量検査は2施設 (5%) でした。

PCR実施施設の他検査の実施状況

PCR検査のみ	6施設
PCR+抗原定量検査	1施設
PCR+抗原定性検査	6施設
PCR+抗原定性検査+抗体検査	3施設

PCR検査機器（導入予定も含める）

	メーカー名	機器名	施設数
全自動 機器 18台	ミズホメディー	Smart Gene	5
	栄研化学	Loopamp Exia	4
	ベックマン	GeneXpertシステム	4
	東洋紡	GeneCube	2
	日本ベクトン	BDマックス 全自動核酸抽出増幅検査システム	2
	東ソー	自動遺伝子検査装置 TRCReady-80	1
汎用機 3台	タカラバイオ	Thermal Cycler Dice Real Time SystemⅢ (Cy5)	2
	サーモフィッシャー	Quant Studio 5	1

- 今後、PCR検査機器（1台目）を4施設が導入予定。
- 6施設が2台以上のPCR検査機器を使用している。（導入予定3施設）
 - 2台の機器を迅速性など用途に合わせて使い分けている。
 - 2台目を補助金申請している。

検体種

検体種	施設数
咽頭	11
唾液	5
鼻腔	11
喀痰	3
その他	1

アンケートの結果では咽頭・鼻腔の検体が多かった。

その他で鼻咽喉頭の回答があり、検体種の中に鼻咽喉頭は選択肢に含むべきであった。

アンケートでの助言

今回アンケートを取り組む中で様々なご助言をいただきました。その内容を報告します。安全キャビネットなど設備もちゃんとしているか等も調査された方がよろしいのではと思います。感染防止、感染予防が一番だと思えます。ちなみに当院は単独の排気口がついた安全キャビネット2台で運用しております。

検査時のPPEなど、他の施設ではどのようにしているか知りたいです。

検査時には感染防止、感染予防は重要になると思えます。次回のアンケート時には取り組んでいきたいと思えます。

PCRは偽陽性/偽陰性を防ぐために細かな技術や確実な知識が必要です。PCRを新たに始められる施設には十分なトレーニングを積まれることを技師会からも注意喚起していただけるとありがたいです。

短時間で測定できる検査キットでは判定に迷う結果がでます。

増幅曲線や、Ct値をしっかりと判断する必要があります。

擬陽性は特にN1で多く起こっています。（たまにN2も）

→時間はかかりますが、いざというときには感染研法（病原体検出マニュアル 2019-nCoV Ver.2.9.1）で確認する基本操作を習得することが大切です。

誤って擬陽性結果を出すと患者本人の生活も変わりますし、周囲の人、行政、病院にかかっていたら医療機関を巻き込んで大変なことになります。

まとめ

PCR検査体制アンケート調査を実施し、44/103施設（43%）に協力いただいた。

新型コロナウイルスの検査を行っている施設は28/44施設64%でした。

PCR検査は16施設で実施していた。

PCR検査機器の中で全自動機器が18台86%を占めてました。

検査の際には感染防止・感染予防に十分注意し、偽陽性/偽陰性を防ぐために十分なトレーニングを積み、細かな技術や確実な知識を身に付けていただきたい。